

『つな環』で大事にしてきたキーワード

ここでは、これまでの『つな環』で大事にしてきた3つのキーワードについて、
象徴的なバックナンバーの紹介と合わせて、ふりかえます。



keyword ▶ **コンフリクトこそ取り上げる**

鼎談の中でも「あえて対立している案件を取り上げたかった」という話があったように、いわゆる「コンフリクト」は初期の大きなテーマでもありました。第6号（2005年3月）では、ペットボトルビールの販売を巡って当事者である企業と販売の中止を求めるキャンペーンを展開したNGOからそれぞれの担当者が

対談をし、その経緯や思いを語りました。第10号（2007年3月）では、当時の滋賀県知事だった嘉田由紀子氏をインタビューし、研究者時代に培った地域への思いや知見を県政にどう活かそうとしているのかについて話を伺いました。



keyword ▶ **時代の変化を記録する**

持続可能な社会を実現するためのこれまでの旅は、必ずしも順調なものではありませんでした。時に、私たちの生活の存続に関わる大きな出来事がいくつもありました。『つな環』も、そのような世の中の出来事について独自の視点で取り上げてきました。

第18号（2011年10月）では、東日本大震災を受けて、震災後地域ではどのような変化があったのか、市民活動やボランティア活動にはどのような変化があったのかを記録しました。第19号（2012年3月）・第

20号（2012年10月）では、ブラジルで開催された「リオ+20サミット」をテーマとし、現地参加者の声を届けました。その流れは「リオ+20プロセス」で生まれたSDGsの採択にもつながります（第27号、2016年3月）。それ以外にも、第35号（2020年3月）では差し迫る気候危機時代における防災を、第36号（2020年9月）では新型コロナウイルスに代表される感染症が社会に与える影響を探りました。



keyword ▶ **協働の仕組みを探る**

この四半世紀に近い間、環境パートナーシップの根幹となる協働の仕組みも変化し続けました。そのような変化の中で、『つな環』も常に悩み、思考してきました。

例えば、第5号（2004年10月）では、当時、地方自治法改正によって新しく導入された「指定管理者制度」を取り上げ、複数の事例を紹介しながらその可能性を探りました。

第21号（2013年3月）・第22号（2013年10月）では、2012年の「環境教育等促進法」の改正を受け、2号にわたって法改定による制度や取組の変化を詳しく解説し、また同時に始まった「協働取組推進事業」についても紹介しました。

直近では、第45号（2025年3月）で環境パートナーシップの「中間支援機能」について、多様な視点で立体的に取り上げました。

※これまでの『つな環』バックナンバーは、GEOC ホームページよりご覧いただけます。

